

WEEKLY REPORT

2018-2019年度
国際ロータリー会長
パリー・ラシン



承認/1965年 6月 25日
例会日/毎週木曜日 12時 30分
例会場/江南商工会館1F 大ホール
江南市古知野町小金112
TEL 0587-54-8132

事務局/江南商工会館別館1F
〒483-8205 江南市古知野町小金112
TEL 0587-55-6554 FAX 0587-59-7720
URL <http://www.kounan-rc.com/>
e-mail kounanrc@beach.ocn.ne.jp
会長/片平博己 幹事/波多野智章 会報・広報雑誌委員長/猪子明



2018年(平成30年)9月27日(木)晴れ 第2624回(当年度第10回)例会

点鐘
司会

ロータリーソング斉唱
四つのテスト斉唱

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

会長挨拶

会長 片平 博己君



本年度、私は2つのことを趣味として取り組んでいます。一つは、今年2018年は戊辰150周年の年です。それに合わせ、幕末から明治維新、特にそれを敗者の側である旧会津藩の視点から見直してみるということ。そして、もう一つは、来年は、天皇陛下が譲位され元号が変わります。それを機会に、天皇、皇室について勉強し直してみるということです。

今年、6月に会津若松市に行き、戊辰150周年の記念事業に参加してきました。全国的には、「明治維新150周年」のほうが一般的ですが、この響きに違和感を持つ人もいます。東北地方では、1868年に起きた戊辰戦争で新政府軍と戦って敗れた藩が多くあり、特に戊辰戦争の激戦地であった旧会津藩では、今も遺恨が、残っています。ですから、「戊辰150周年」とされています。そんな過去の話をついで引きずっているのかとも思っていたのですが、実際に現地ではいろいろな方の話を伺うと、先祖が命だけではなく名誉も傷つけられたことに対して、簡単に片づけることができないものもあるのだなと感じました。

ただし、民間交流を通じて仲良くしようと、新政府側の

長州(山口県)の米を使って、旧幕府側の会津でお酒を作ろうという試みの披露会にも参加しました。安倍晋三首相夫人の昭恵さんが育てた米で、会津に江戸時代から続く末廣酒造にて作られた「やまとのこころ」という純米大吟醸酒の披露会です。酒蔵の見学会はじめ、市長、商工会議所、震災で被災された多くの方々と、関ヶ原の合戦から戊辰戦争、そして、東日本の震災についての話を伺いました。

歴史は、単なる過去の出来事ではありません。その出来事に関わった多くの人たちに優しいまなざしで向き合うとき、歴史は輝きはじめ今を生きる私たちに多くの示唆を与えてくれます。これからも自ら足を運び、丁寧に歴史を学んでいこうと思いました。

また、今年に入って、伊勢神宮、熱田神宮、出雲大社、榎原神宮、天河神社にお参りしました。11月には高千穂神社に参ってくる予定です。まずは、皇室の御祖先の神々を仰ぎ見て参ります。そして、天皇・皇室、及び日本人の原点を理解するためにはまず、神話の理解が必要だと思います。何とか今年中に「古事記」の現代語訳本を通読して、来年に備えたいと思います。

20世紀を代表する歴史学者であるトインビーは、「12、13歳くらいまでに民族の神話を学ばなかった民族は例外なく滅んでいる」と言っています。この言葉は、民族の神話を学ぶことが民族存立の要件であることを示唆するものです。学校で神話を学ばなくてなって久しくなりますが、まずは、大人から学び子供たちに伝える機会ができれば良いと思っています。そして、できる限り早く神話が授業で取り入れられるよう働きかけたいと思います。

報告 -別紙-

祝福

出席報告

幹事 波多野 智章君

委員長 尾関 育良君

委員長 冨永 典夫君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
45名	28名	17名	75.68%
前々回 欠席者4名(9月13日)			
補正出席率 87.88%			

ニコボックス

冨永 典夫君

○本日の卓話宜しくお願ひします。先日のボウリング例会、渡邊さんに完敗でした。

片平 博己、加藤 義晴、波多野 智章各君

○中学・高校同級生・暮石さんの卓話を聞ける喜び。

伊藤 靖祐君

○本日、東京での会議の為、欠席します。又、先日のボウリング例会後のあとの3次会、永井君がいなく寂しかったです。

岩田 静夫君

○ボウリング例会で、B.B賞をいただきました。約20年ぶりで、投げ方も忘れてしまったようです。渡邊さんに負けました。心より喜金させていただきます。

猪子 明君

○本日の卓話宜しく願います。

暮石 哲真君

○倉知さん、色々ご協力をいただきありがとうございました。

濱島 聡一朗君

○暮石哲真君の卓話を楽しみにしています。

伊藤 鶴吉、森 弘好、倉知 正憲、松岡 一成、
富永 典夫、杉浦 賢二、大池 武徳、沢田 昌久、
岩田 進市、近藤 道麿 各君

江南青年会議所からのPR



本日の卓話

「建物の色のこと」 暮石 哲真君



建物のことについて話したいと思います。建築設計の作業について、もっとも大事なものは空間を作りこむことであると思っています。また空間をどのように作りこむことが設計の楽しさと考えています。そういうプロセスも含めて設計のごとをしてきたような気がします。昔からよく言われているのがその場所で、この建築がある理由があるといわれています。いわゆる地霊を読むということが言われています。その場について、周辺を歩き回り 人の流れを見て、物の流れを見て、環境を感じながら設計していきます。プレゼンテーションではよく模型をつくりますが、最初から色をつけることはありません。基本、白色模型です。クライアントに変な先入観を入れてほしくないからです。あくまで空間が大事であるとの考えからです。そして建築の色の基本は、素材からの質感・色がすべてであると考えています。ですから材料選びが重要と考えています。少し話は違いますが、女性は、素材の良さをひきたて

るような薄化粧が良く、若い女性の誰をみても同じではないかと思うような厚化粧はどうかかなと思います。やはり素材だと思っています。ですから、建築も外装に色だけをつけたようなものは、あまりかなあ？とは思いますが、実は洋服もそうかと思いますが色の影響力は大きなものがあります。色は形よりすばやく印象づけるということが言われています。

「ところで、皆さんの車の色は何色ですか？」

白と黒はやはり色のようですが、色によって事故の確率が上がっているようです。どういふことかという前方に飛び出してくる進出色と、うしろに下がって遠くに見える後退色というものがあります。暖色系の彩度の高い色は、進出色で、寒色系の暗い色・くすんだ色は後退色です。たとえば赤色の車と青色の車が同じ位置にいた場合、僕たちの目には赤色の車の方が7m近くにいるように見えると言われています。遠くに見える青色の車は、小さく見えることで他の車からぶつけれやすく、事故率が高いらしいです。

建築にも、たくさん色を使います。色の影響力を考えて計画をしないとおかしなことになることもあります。インテリアの色彩を考えた場合、僕たちの時間感覚は色によって、影響されています。たとえば、ピンクのカーテン、真っ赤な絨毯、橙色のソファの応接にいと、時間が倍に感じられることがあるようです。そういう部屋で会議をすると、出席者の大多数が3時間の会議が6時間かかったと言っている実験結果があります。時間を長く感じたい場合は、暖色系のカラーにするといよいようです。ですからいい人と親密な時間を過ごしたいときには、こういう部屋にいと、時間の経過が長く感じられ、いい関係を築くことができるかもしれません。間違った色使いの部屋で愛を語り合っていないませんか？結婚式場といえ、真紅のカーペットは古いかもしれませんが暖色系の色が使われています。時間がゆったりと流れていくように感じられ、充実した式を演出しやすいようです。それにより回転率を上げるはたらきをします。反対に寒色系は、実際の時間を短く感じさせます。1時間たったかなあと思っても、実は2時間たっていることが多いようです。ですから、工場のカラ計画につかうと終業の合図で初めて8時間たったとうことがわかるくらい短く感じるようになります。実際の時間経過を半分未満に過小評価できることとなります。きまりきった仕事とか、単調な作業をするところでは、時間の経過が早く感じられる寒色系の色彩が最適となります。他の要素も影響もありますが、カラ計画は働く環境を作る要因となります。このように色は、時間の長短に影響を及ぼしていますが、その他に人間の生理や感情に及ぼす力があるといわれています。

人間は、色を単に眼だけでなく、心でうけとめていといわれています。暖色系を見ると心理的に暖かさを感じ、実際に体が温まり体温も上昇します。寒色系は、心理的に冷たく感じ、身体が寒く感じ体温はさがります。統計調査のデータで、職場の欠席が多いので原因を調べたところ、顔色が悪く見えたことが理由らしかったそうです。壁の色が灰色だったので、暖色系のページュに塗り替えると欠席は減少しました。室温が

高いという不平があった工場では、明るい灰色など寒色系の色にしたところ不満がなくなりました。逆に、空調で室温21℃設定にしていたら、女子従業員から寒いという苦情がたえなかったが、室温を変えなく白い壁をくすんだ色に塗り替えたなら苦情がなくなりました。

このように、実際人の感じる温度を調査すると、暖色系と寒色系では体感温度は、3度開きがあることがわかっています。色の人間の生理・感情に及ぼすものは、大きなものがあります。だから、カーテンを変えるだけで部屋が暖かくなることもあります。僕たちも色決めといって内外装の材料・色決めをしますが、季節によって選びたい色が変わるので間違えないようによく検討してきめることとなります。カーテンくらいであれば季節で取り替えればすむことでいいのですが、壁では難しいこととなります。

また、物の重さは、色によって軽くもなりますし、重くもなります。同じ重さのものを、白い包装紙と黒い包装紙で包んでみると、黒は白より2倍の重さを感じます。ある実験データでは1.87倍と言われています。明るい色は軽く、暗い色ほど重く感じ、明度が軽量感に強くはたらきかけることとなります。また、色相・彩度にも軽量感を左右する性質があります。さえた色は軽く、くすんだ色は重いこととなります。しかし、色は視覚によってもたらされていると思われていますが、そうではないという実験結果があります。目を閉じて自分が4方赤い色に囲まれた状態をイメージしてください。どのように感じますか？暑く感じませんか？



また、4方青い色に囲まれた状態をイメージしてください。どうでしょうか？寒く感じ感じませんか？

実際にやった赤い部屋と青い部屋の実験があります。温度・湿度は一定に保ち、コントロールされた状態としたところに、目隠しされた状態で部屋の真ん中にある椅子に15分座らせてみます。そして、脳波・心電図・サーモグラフィ・脈拍・呼吸数・筋肉緊張を測定したものです。赤い部屋に入れられた人は、すぐにサーモグラフィが反応し、実際この場所に置かれた人は暑く感じたと言っています。逆に、青い部屋に入れられた人は、サーモグラフィは反応なく、この中の人は涼しく、気持ちよく感じたと言っています。視覚に頼らなくても直接体にはたらきかけるようです。寒い日に赤色の靴下をかくと、ぽかぽかしてくるとか、水色のパンツで腰が冷えた感じになります。

見えないところにも効用が認められているようです。サッカーW杯がありました。スポーツの世界でも「赤い色」がよくつかわれています。気持ちを駆り立ててく

れ、闘志を高めます。イギリスの科学誌ネイチャーは「赤のユニフォームを着た選手の勝率は55%」と発表しています。なんと勝率が5%アップするのです。ちなみにイギリスのユニフォームは赤です。日本は青ですね。これが、韓国に最後に負けてしまう要因かとも思えます。

ただ、視覚というものも太陽光があつてなりたっているものであります。色と光は切っても切れない関係にあります。太陽光は、地球上に均一に注ぎますが、どこにも一緒かというところではありません。どういうことかと言うと、丸い地球の周りに大気圏が取り巻いています。大気圏を通過して光が注ぎますが、地球が丸いためこの中を通る長さが南北極にいくほど長くなります。大気圏には、空気粒子や浮遊物にぶつかって散乱します。この長い距離の空気層を通過すると、照度が低下し、色温度が上昇することとなります。緯度の差によって色温度が変わることとなります。夕焼けの空は、なぜ赤いかと言われますが、地平線に沈む太陽光が、分厚い空気層を通過するために赤く染めます。こうしたことが地球全体で起こっていると考えられるので、緯度によって受ける太陽光の種類が違うこととなります。この太陽光が視覚的に色に影響を及ぼしています。どういうことかと言うと、地域によって同じ色でも見え方はちがうこととなります。

赤道では、色温度の低い自然光であるので、鮮やかな「赤」がより美しくみえることとなり、南北極では、色温度の低い自然光であるので「青紫」が美しく底光りすることとなります。色について、生まれ育った地域性を感じることなく生活していますが、それが原因で他の地域の人の好みにたいする無関心・無理解となっている場合があります。趣味の悪い服装であるとかんじて生まれ育った地域ではセンスいいなんてこともあります。こういうことは、遺伝子に組み込まれた嗜好性でもあるので、出身地から嗜好色を類推したりすることもできるのではないかと思います。本州の中央部あたりで「暖色系を好む南日本型」と「寒色系を好む北日本型」に分かれます。この辺りは暖色系の地域のようなものです。もうひとつ、湿度に起因するものがあります。

山々からの大量の降雨は、空中の湿度により自然光にシェードをかける働きをします。夏の高温多湿や冬の低温低湿の環境をつくり、日本を「太平洋型」と「日本海型」に大きく2つに分ける要因になっています。太平洋側は、湿度のアップダウンが大きく梅雨時の高さから、冬時の乾燥状態へと大きく変動しています。日本海側はあまり変化がないようです。夏のように湿度が高いと、大気中に浮かんだ水蒸気の粒子の為に、見え方が悪くなるということがあります。反対に冬の乾燥した大気は、光をそのまま通すこととなります。クッキリとした景観が現れることとなります。

日本海側へ冬に行かれたことはあるかと思いますが、なかなか晴れ間というものはありません。低く垂れこめた雲が、覆っています。冬は、気持ちもなかなか晴れることがないように感じます。これは、冬場の自然光の見え方を著しく低下させています。大気上に含まれた水蒸気の粒子が満たされ、もやもやした感じとなりま

す。クッキリとした景色はなく、全体の重いシェードのかかったような景観となります。太平洋側の方が、幅広い光と影に適應しているのに対して、日本海側の方の場合は、極端な明るさや暗さがカットされた環境にいることとなります。そして、全てのものにシェードをかけた状態をつくりだします。これが嗜好する色に影響を及ぼしています。そうすると、日本は大きく4つの領域に分類することができることとなります。北日本の寒色系と南日本の暖色系の色相と、太平洋側の清色系と日本海側の濁色系のトーンとなります。4つの領域があることをよく理解していくと色彩の計画を進めていけば大きくは間違いないようにと思われま

す。少し前の例となりますが、日本車の輸出先に民族のカラー・デザインの適合性の問題がでていたといわれていました。関東の日産自動車は、北ヨーロッパで歓迎される傾向がありました。中部の豊田自動車は、最初からアメリカで支持されています。北ヨーロッパでは、関東流のシャープなスタイル、クール・フォーマルなデザインが共感されているのに対して、アメリカでは関西流のカジュアルなスタイル、ウオーム・ゴージャスなデザインが共感されています。アメリカは、世界最大の自動車消費国であるので、アメリカでの人気が国際的な価値判断尺度である為、そのデザイン政策・カラー政策が標準語とみなされこととなります。ですから、関東の感覚とうものは、国際的評価を見ると北ヨーロッパ寄りの完成傾向を持つということとなります。それ故の豊田・日産の現状での差となっているのかどうかはわかりません。若い時に、30件ほどの建売を担当した経験した時がありました。色決めもしましたが、大体ワンパターンになりがちです。たまには少し違う色をと考え、薄いグリーンの外壁としたことがありました。出来上がると、清里のペンションかというような感じです。これは違うなという感じでした。塗りなおさないといけないのではと思ったくらいでした。所長からも、この色大丈夫ですかねといわれ、少し心配していましたが、運よくすぐに客が付き安心でした。

10人10色いろいろな人がいますのでたすかりました。買われた人には、この色がいい色として認識されるようでした。それが、どんな理由によるものかは聞くことが出来ませんでした。出身地くらい聞いておけばよかったかなと思っています。

ちなみに、グリーンゾーンは36度線なので、松本から銚子・水戸に至るラインあたりで、このあたりに関係のあるひとであったからかもしれませんが今となってはなんとはいえません。ただ、それからは、より色決めに慎重になりました。

いろいろな出身の人が、地球上のいろいろな場所に住むようになって、地域の統一性があまりなくなりましたが、たまに周辺とはあまりに違和感のある家がたっている場合は出身地の違いによるものであることが原因であることもあるかもしれません。

地球は丸いので、すべての地域に同じように太陽が注いでいるように見えますが、実は地域ごとに異質な特性をもった光を浴びているものが大きな原因であります。また、太平洋側と日本海側の湿度の違いは、全て

のものにシェードをかけた状態にする。こういうことが自分の無意識に出身地の嗜好が入ってきているようです。

以上、建築の色にまつわる話をさせていただきました。あまり、参考になるものではないかもしれませんが、頭の片隅にでもおいていただければと思います。御清聴有難うございました。

北海道胆振東部地震災害義捐金募金



例会時、メンバーに募金をお願いし、総額25,550円の厚志が集まりました。

本日の食事



点鐘

会長 片平 博己君

バナー交換

9月26日(水) 岩田静夫君が、東京神宮RCの例会(六本木ヒルズ 51F)に出席し、バナー交換いたしました。



(担当 猪子 明)